

定植直後のリンドウへのアセフェート粒剤施用が生育に及ぼす影響

福島県農業総合センター 作物園芸部花き科

1 部門名

花き一リンドウー生理障害

2 担当者

高田真美・鈴木安和

3 要旨

リンドウ栽培において定植直後のアセフェート粒剤施用による葉先枯れ症状の発生経過は以下のとおりである。

- (1) 薬剤散布が定植日に近いほど葉先枯れ症状が発生する(写真)。定植 7 日後、14 日後の散布でも発生するが、症状は軽微であり、その後の生育に影響はない(表)。
- (2) 定植 7 日以降は顕著な葉先枯れ症状が発生せず、安全に使用できる散布時期である。



写真 アセフェート粒剤による葉先枯れ症状
(定植直後に散布し 14 日目の状態)

表 アセフェート粒剤による葉先枯れ症状の発生率

散布時期	散布		
	3日目	7日目	14日目
定植直後	0	8	50
定植7日後	0	0	33
定植14日後	0	0	8
定植21日後	0	0	0
無処理	0	0	0

発生率(%) = 葉先枯れ株数/総株数 × 100

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 23 年度～26 年度
- (2) 研究課題名 福島の顔となるリンドウの高収益を実現する安定生産技術の確立
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料